

2025年度 佐賀西部コロニー 事業実績報告書（案）

1. 法人運営に関するもの

念願だった多良岳福祉園新築工事も9月末に無事に竣工を迎えることができた。古川代議士はじめ地元選出の国会議員の先生、更には佐賀県副知事、健康福祉部部長ほか多くの来賓の方がご臨席の下、10月14日に盛会に落成式を挙行することができた。思えば今年の11月より役員の皆様が見守る中に着工し、多くの工程会議を経て思いが詰まった建屋である。ハード面の整備が進み、次はソフト面の整備が課題である。多良岳福祉園は、新たな建物における支援を想定し様々な課題の検討を進めてきたが、転居後は想定とは違う導線の問題など日々生活支援の課題と対峙しながら支援の充実を目指した。

職員育成については、事業所内研修の充実や知識・資質向上は必須であるが、更に今年度は事業所間の垣根を払い、階層別研修会を初めて取り入れた。新たな処遇改善加算の算定要綱である、職場環境等改善のひとつであり階層ごとに役割が明確化され責任に応じたスキルアップが求められる。特に講師については社外より招集し目的や必要に応じて小テストを行うなど、緊張感があり第3者的にみても透明性のある研修が実施できた。

処遇改善等手当については昨年支給基準について見直しを行い、処遇改善加算で得た原資は、資格取得や職場環境等改善などで実績・成果を示した方への配分が望ましいという要綱に応じて支給を行った。

2. 福祉事業活動

昨年の報酬改定は入所系など住まいのサービスには厳しい事業運営を強いられることになった。また就労系サービスにおいては平均工賃算定方法が変更され、全国的に高工賃の区分事業所が増加傾向であり目標工賃達成のハードルは高きものとなった。また今年に入り厚労省より令和8年度は臨時報酬改定が予定されており、年度途中であっても制度の動きに注視することが多くなった。そんな中でも各施設とも法令を遵守し、適正な事業運営に努めた。

また毎年酷暑の中での法人イベントの全日本カブト虫相撲大会の開催について、昨年に続き太良町より会場内の空調機設置に係るリース費用を助成していただき、安全に大会を運営することができた。また本年も本大会の様子を、太良町観光協会のYoutubeより広く発信していただいた。

運動会や勤労感謝の会については、本年度も施設合同開催はできなかったが、各施設の創意工夫で様々な活動を行い、利用者様に喜んでいただいている。

3. 就労事業活動

就労支援事業においては、佐賀西部コロニー収穫祭や障害者月間中の太良町役場での販売会など就労活動の活発化に取り組んだ。

2025年度 多良岳福祉園 事業実績報告書（案）

1. 総括事項

(1) 施設運営について

本年度は、法人及び多良岳福祉園においては念願であった新築工事が順調に進み、無事に秋の竣工を迎えることができた。令和7年10月14日に古川代議士はじめ国会議員の先生や平尾佐賀県副知事をはじめとした関係各位ご参列の下、落成式が挙行できた。利用者様は個室での新たな生活環境がスタートし、ひとり部屋の楽しみがある反面、生活導線や障害特性の課題も少しづつ浮き彫りになった。このような状況であっても利用者様が参加する個別支援会議の実施をはじめ、ケース会議の開催を経て半年後には大卒落ち着きははじめ安心した生活を送られている。また運営においても義務化になった虐待防止委員会や感染症対策委員会の開催、更には業務継続計画の策定及び見直しなど、法令遵守に努め、適正な事業運営を進めていった。

更に本年度より義務化になった「地域連携推進会議」は、入所系など住まいのサービスが閉鎖的で施設利用者が不利益な待遇を受けていないか、外部の意見を取り入れた事業運営を求められる事業である。第1回の会議において本人や保護者代表及び地元の区長さんや町民福祉課課長さんが参加していただき、忌憚なきご意見が参集できた。地域交流においては、本年度は鹿島警察署から相談を受け、障がいのある方への理解促進に向け協力を行い、利用者様に対しては佐賀県消防音楽隊による演奏会を開催していただいた。また佐賀県障害者月間の取り組みとして太良町及び町内障害福祉事業所とともに太良町役場前での販売会や太良町社会福祉協議会と地元ボランティアが行っているご縁クラブ活動への参加、そして太良高校生のボランティアの受入れも行った。

(2) 施設利用者の豊かな人格形成

本年度は建設関係の影響で計画が先延ばしになり、年度末に長崎市へ日帰り旅行を実施した。長崎市のペンギン水族館や稲佐山の景観を眺めながらの食事会やバスの中でのカラオケなどを楽しんだ。また12月には清川（鹿島市）でのクリスマス会など、利用者様と職員の親睦を深めることができた。

(3) 快適な質の高い施設づくり

竣工後は新たな環境下の中で利用者様が不安なく過ごせるよう、支援を想定してきたことを実践に移した。これからは利用者様の高齢化、重度化にかかる支援量が多く必要になるため、特に日中活動については生産活動の縮小が必須であった。どんなに障害が重くとも高工賃にこだわった法人の歩みを大事にしつつも、これまでとは違い生産活動でなく利用者様への適切な支援の在り方について熟考し、新たな創作活動の充実を目指すことになった。

また、町立太良病院からの訪問リハビリ指導や管理栄養者が中心とした栄養ケアマネージメントの実施など、利用者様の健康管理にも取り組んだ。虐待防止の取り組みとしては、虐待防止委員会で企画し、本年度もグループワークを取り入れた職員研修会の開催や虐待チェックリストの実施、更に第5回多良岳福祉園虐待防止標語コンテストを開催した。本年度は、54作品の応募の中から次の作品が入賞し、開かれた施設と利用者様の権利擁護に努めることができた。

○令和7年度 多良岳福祉園虐待防止コンテスト

最優秀賞 1作品「さあ～今日も！ みんなが 笑顔になる施設」
優秀賞 2作品「どうしたの？ 困った様子に チームケア」
「共感で 人の心に オアシスを」

(4) 働き甲斐のある施設づくり

上期で農産部門の活動を終了し、部門再編成を行った。課題の「働き甲斐のある」について下期はワーク班、スマイル班、工芸班の名称で活動を進めた。今後は日中活動の更なる充実と、どんなに障害が重くとも日中活動で作製したモノづくりが、社会に発信できる事業に繋がるよう模索しながら、発信力のある施設づくりに取り組んだ。

2. 福祉事業活動

本年度は、1名が病気で6月にサービス終了となり、3月新たに1名が利用開始する。定員60名に対し現員57名である。障害福祉等サービス事業収益は235,586千円で昨年度より1,175千円の減収となった。なお本年度も、処遇改善等加算の加算増額分について実績に応じた支給を行った。

3. 日中事業活動

本年度は新築移転に伴い事業再編成を行い、8月に農産部門のしいたけを生産終了することになった。野草部門については年間通じて販売構築が課題となりレモングラス畑を増やし生産量増を目指した。下期はワーク班として野草・クリーニング部門が主体の事業運営を行い就労支援事業収益は6,812千円と大きく減収となる。9月末に一時金5,000円を支給し、下期よりワーク班のみが生産活動を行った。月額平均工賃については、一人当たり月平均5,676円と昨年度比1,672円の減額となった。

部門別の収入実績については、下記のとおりである。

	2025年度 (千円)	2024年度 (千円)	差額 (千円)	前年度比 (%)
農産部門収入	4,360	16,272	▲11,912	26.8
園芸部門収入		2,933	▲2,933	—
野草部門収入	2,292	1,262	1,030	181.6
工芸部門収入	159	225	▲66	70.7
その他収入		291	▲291	—
合 計	6,812	20,983	▲14,172	32.5
一人当たり工賃	(円/月) 5,676	(円/月) 7,348	▲1,672	77.2

4. 相談支援事業

今年度も、通常業務であるサービス利用計画書の作成やモニタリング報告を中心に行いながら、当法人以外の事業所を利用されている方の支援にも力を入れ取り組んだ。ご本人の希望を支援に反映してもらうために、本人、事業所、行政、相談事業所が話し合いを重ね、皆さんが順調にサービスの継続ができていることは成果であった。また生命に係わる意思決定支援に直面し、医療機関、行政、支援者、多良岳福祉園の心がひとつになり、意思決定支援を行ったことは今後に活かしていかなければならない経験となった。新規の受入れや困難事例対応、介護保険への移行、地域の中での社会資源としての役割など活動を広げることもできた。

1. 総括事項

(1) 施設運営について

令和7年度、当法人は利用者様の高齢化という課題に対し、「持続可能な事業運営の確立」を最優先目標として掲げ、組織体制の強化に取り組んだ。あわせて、社会福祉法人として地域社会との絆を深め、法人および事業所の存在意義を広く発信することに努めた。

地域貢献では、昨年度に引き続き杵藤エリアのこども園にて「出張昆虫教室」を開催した。全日本カブト虫相撲大会の広報活動と連動させることで、地域貢献と事業所認知度の向上を図った。また、3月には支援学校卒業生1名を受け入れ、新たな利用開始となった。今年度は、ブランド化戦略が実を結び、地域における事業所の存在感を着実に高める一年となった。今後も、すべての利用者様が誇りを持って働ける環境を維持・発展させ、福祉的自立を支える高工賃の実現に向けて邁進する。

また、職員の資質向上については、本年も社協のWeb研修を主体に様々な研修を受講した。またOJTとして「虐待防止・身体拘束」や「BCP」、「感染症対策」等の各種委員会において意見討論を行い、障害福祉サービス事業所の職員としての知識向上に努めた。

(2) 施設利用者様の豊かな人格形成

全日本カブト虫相撲大会や収穫祭においては進行係や販売係、会場整理係など役割を担ってもらい社会参加を行うことが出来た。またアビリンピック大会においては、「挑戦」として木工部門に1名新たに参加、縫製部門と合わせて合計4名が「技術屋」としてチャレンジすることができた。また、全国アビリンピック大会では、木工部門に佐賀県代表で1名出場し念願であった銅メダルを受賞した。

(3) 快適な質の高い施設づくり

利用者様個々に合わせた支援を目指し、佐賀西部ホームと連携して支援にあたった。また偶数月第4土曜日を環境整備の日として施設内の環境美化に取り組んだ。

(4) 働き甲斐のある施設づくり

朝礼時は毎日ラジオ体操を実施し、皆で昆虫の里で掲げた「私の目標」を復唱し、「笑顔でダッシュ！夢に向かって駆け抜けよう」を合言葉に明るく元気に笑顔で一日のスタートができるように取組んだ。

作業時には安全配慮と整理整頓を心がけ、けがのない安全で明るい作業場の環境づくりに努めた。

2. 福祉事業活動

利用者様は3月より1名入所、定員35名に対し現員35名である。障害福祉サービス事業収入は、89,547千円と昨年より200千円の増収となった。施設整備については、ダンプ、放送設備、パソコン2台、さつま芋貯蔵庫用エアコンなど設備更新を図った。

3. 就労支援事業活動

就労支援事業においては、「ディーセントワーク」の実現および「社会に誇れるものづくり」の確立を基本方針として事業運営を行った。独自商品である「コロニーブランド」の再構築に着手するとともに、海水栽培農法等の高付加価値事業への取り組みを推進した。園芸部門においては、タケノコおよび海水みかんの収穫量が増加し、収益性の向上につながった。特に海水みかんは表年と品種を増やしたことにより収穫期間が長期化したことから、贈答用を中心に販売額が伸長した。また、加工品については黒ニンニクおよび湯がきタケノコの販売が好調に推移し、過去最高の売上16,000千円を超える成果を達成した。木工部門では、認定こども園向け家具製作をはじめとする特注品を中心に、多様な製品づくりに取り組んだ。印刷部門においては、のぼり旗、横断幕等の定番商品を中心に受注が安定し、販売額の増加に寄与した。

さらに、清掃業務については、従来の肥前大浦駅および道の駅太良のトイレ、多良駅西口（多良岳口）の清掃継続。また、佐賀NOKからの自動車部品組立作業も継続的に受注し、年間を通じて安定した収入の確保につながった。

また、就労事業にて園芸班の高圧洗浄機、アルミブリッジ（道板）印刷班マック（パソコン）を資産として取得した。

これらの取り組みの結果、就労支援事業収入は前年度比2,173千円増の40,416千円となった。工賃については、昨年度比1,035円増となる一人当たり月平均41,131円を支給し、2025年度の目標工賃を達成した。

なお部門別の実績については、下記のとおりである。

	2025年度 (千円)	2024年度 (千円)	差額 (千円)	前年度比 (%)
木工部門収入	13,048	14,166	▲1,118	92.1
園芸部門収入	16,643	13,689	2,954	121.6
印刷部門収入	10,723	10,387	336	103.3
合 計	40,416	38,243	2,173	105.7
一人当り工賃	(円/月) 41,131	(円/月) 40,096		

※施設外就労は木工・印刷部門の利用者様で取り組んでおります。

2025年度 佐賀西部ホーム 事業実績報告書（案）

1. 総括事項

(1) グループホーム運営について

令和7年度は、共同生活援助事業所において「地域連携推進会議」の義務化初年度にあたり、当事業所においても地域との関係構築およびサービスの透明性向上を重点課題として取り組んだ。会議の開催を通じて、地域住民および関係機関との意見交換の機会を確保し、利用者に対する理解促進と支援の質の向上に寄与した。

また、利用者の生活の充実を図るため、年間を通じて各種行事を実施した。主な取り組みとして、クッキング教室の開催に加え、9月にはプロ野球観戦、11月にはサッカー観戦、3月には花見を実施し、余暇活動の充実と社会参加の機会創出に努めた。

職員の資質向上については、社会福祉協議会が実施するWeb研修を中心に各種研修へ積極的に参加した。また、事業所内研修として、昆虫の里との合同により「虐待防止・身体拘束」「感染症予防」「BCP(事業継続計画)」に関する研修および訓練を実施し、障害福祉サービス事業所職員として必要な知識および対応力の向上を図った。

(2) グループホーム利用者様の豊かな人格形成

太良町の振興券を活用し、食事会の実施や刺身を含む特製弁当の取り寄せを行った。また、定期的買い物支援等の余暇活動を計画・実施することで、地域社会との交流機会を確保した。これらの取り組みにより、利用者の生活の充実および社会参加の促進を図ることができた。

(3) 快適な質の高いグループホームづくり

昆虫の里との連携のもと、施設環境整備の向上に取り組んだ。奇数月第4土曜日を「環境整備の日」と定め、ホーム内外の清掃および整理整頓を定期的実施した。加えて、日常的な清掃および衛生対策については支援員が継続的に実施し、清潔で快適な生活環境の維持に努めた。

(4) 喜び溢れるグループホームづくり

安心して生活できる環境整備を推進し、活力ある明るいホーム運営に努めた。毎月1回の互助会会議を開催し、利用者の意見を反映する仕組みを継続した。利用者が主体的に取り組める活動については見守りを基本とし、必要に応じた支援を行うことで、自立支援と満足度の向上を図ることができた。

2. 福祉事業活動

本年度の利用者数は4月末に1名退所し、地域移行となった。3月に支援学校の卒業生1名入所し、定員30名に対し現員26名である。福祉事業活動収入は48,316千円と前年より、172千円の減収となった。なお利用者様の支援については、個別支援計画や意思決定支援を重視し、生活支援員・世話人が主体となり本人の目標や意思を尊重して支援にあたった。

2025 年度 白石作業所 事業実績報告書（案）

1. 総 括

令和 7 年度（2025 年度）は、障害福祉サービスを取り巻く環境が引き続き大きく変化した一年であった。国においては、障害者の地域生活支援の充実にに向けた制度改正の議論が継続し、就労継続支援 B 型事業所においても工賃向上への取り組みがより一層求められた。また、2026 年 6 月から施行される臨時応急的措置に伴う報酬区分の見直しが示されており、工賃実績に基づく報酬区分への移行に向けて、工賃水準の維持・向上に積極的に取り組む必要が生じた。

物価高騰は引き続き施設運営に影響を与え、原材料費・エネルギーコストの上昇が生産活動の収益性を圧迫した。一方で、地域との連携や販路開拓により一定の売上確保に努め、利用者の工賃向上を最優先課題として全職員が一体となって取り組んだ。

事業計画に基づく各委員会（BCP 委員会・感染症対策委員会等、法定で定められた委員会）については、年間計画どおり全て開催することができた。

2. 施設の運営方針

（1）施設利用者様の豊かな人格形成

白石作業所では、映画鑑賞や食事会、バレンタインデーなど施設独自に利用者処遇向上のための様々な活動を進めた。さらに各種イベントへの参加・出店、年末の「みかん祭り」等の店舗イベントを開催し、利用者様が販売活動を通じて地域の皆様と交流する機会を設けた。佐世保方面への日帰りバス旅行等の余暇利用により、社会との交流の喜びを習得できるような事業の実施に努めた。

（2）快適な質の高い施設づくり

法人運営理念の『互譲互助』精神と「やればできる！一步前進！」を 1 年の目標として、挨拶が響きあう明るい職場づくりに努め、創意工夫を重ねながらより効率的な作業体制を構築し、安全で快適な働き甲斐のある施設づくりに努めた。

職員の資質向上については、個々人の研鑽と意識改革の喚起を促すために各種研修会への参加を計画し、研修会等の参加により職員の資質向上に努めた。また、法人で定めるキャリアパス要件に準拠した働き方改革と職員の処遇改善手当等の増額など大きな改善に努めた。また利用者様で作る互助会会議へのサポートも行い、利用者様と職員が一緒に明るく楽しい施設づくりに努めた。なお次年度より利用者互助会役員は新体制となる。

（3）働き甲斐のある施設づくり

「明るく楽しく」をモットーに、就業中における事故等の防止に努め、作業の安全が守られるように職員の意識向上の啓発に努めながら労働安全衛生管理の徹底に取り組んだ。また、利用者様と施設の安心・安全確保のため防災訓練を実施し、施設の保安管理を進めた。ヒヤリハット事例の共有と事故防止策の検討を行った。

新型コロナウイルスやインフルエンザ感染については、本年度欠席者が数名発生したが、速やかな対応により施設内での感染拡大は防止できた。引き続き感染症予防の取り組みと BCP の整備・運用を継続していく。

3. 就労継続 B 型事業

（1）福祉事業活動

本年度は、2 名の退所（1 名は自立に向けての退所）と 1 名の新規利用があった。障害福祉サービス事業収入は、前年度▲119 千円減の 68,133 千円となった。

また施設整備については、老朽化が進む車両などの廃棄を行い、スチームコンベクション購入や多良岳福祉園より車両とパソコンの移管なども受けている。

（2）就労事業活動

本年度の就労事業収入は 39,545 千円と、前年度（38,190,242 円）に対して 1,354 千円増収となった。物価高騰による原材料費の上昇や宇宙科学館でのアイスクリームの販売規制等があったが、菓子部門や販売部門の健闘により大幅な落ち込みは回避できた。工賃については、報酬区分見直しに向けた工賃向上の取り組みを利用者様・職員が一体となって推進し、2025 年度は 1 人当たり月平均 33,028 円を達成することができた。

工賃変動積立金については 950 千円の積み立てを行い、安定的な工賃支払体制の確保に備えた。また安定的な事業運営を図るため、設備等整備積立金として 1,336,295 円積み立てを行った。

部門別の実績については、下記のとおりである。

【部門別実績総括表】

部 門	2025 年度 (円)	2024 年度 (円)	差額 (円)	前年度比 (%)
アイス収入	4,726,635	5,710,875	▲984,240	82.8
園芸収入	5,025,704	5,412,327	▲386,623	92.6
菓子収入	9,762,217	8,679,067	1,083,150	112.5
食品加工収入	2,925,818	2,837,340	88,478	103.1
こんにやく収入	2,319,213	2,313,300	5,913	100.2
販売収入	14,785,164	13,237,333	1,547,831	111.7
合 計	39,544,751	38,190,242	1,354,509	103.5
1 人当り工賃 (円・月)	33,028	30,090	2,938	109.8